

| 科目名 Subject Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|--|----------------------------|--------------|-----------|
| 訪問介護員講座Ⅰ(職務の理解、介護における尊厳の保持・支援、介護の基本) | | 2年 | 前期 | 別途、時間割表参照 |
| Course of Study on Visiting Care-Giver I | | | | |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | |
| 2単位 | 講義 | 選択 (訪問介護員ユニット必修) | | |
| 当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目 | | | | |
| 訪問介護員講座Ⅱ・Ⅲ 訪問介護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 訪問介護員実習 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 訪問介護員講座Ⅱ・Ⅲ 訪問介護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 訪問介護員実習 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス | |
| 大熊 信成 | 福祉棟3F | 火～金9:00～17:00 (授業時間を除く) | 授業中に指示します | |
| 授業の概要 | | | | |
| 「訪問介護員講座Ⅰ」では、「職務の理解」「介護における尊厳の保持・支援」「介護の基本」について学習する。在宅におけるケアなどの実践についての知識を習得し、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、サービス提供の基本的視点を理解する。さらに介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることについて学習する。 | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | |
| ①在宅ケア等における実践について具体的なイメージを実感できるようにする。②介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解することができるようにする。③介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解することができるようにする。④介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 基本的に講義形式で行うが、必要に応じてグループ討議などの演習方式を取り入れる。実践的能力の習得を図る授業とする。 | | | | |
| 学習の成果 | | | | |
| ①在宅ケア等における実践について具体的なイメージを実感できる。 ②介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解することができる。 ③介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解することができる。 ④介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・授業中の留意点など) 職務の理解① 介護保険サービス、介護保険外サービス | | | |
| 第2回目 | 職務の理解② 介護職の仕事内容や現場の理解 | | | |
| 第3回目 | 職務の理解③ 居宅、施設のサービス提供について | | | |
| 第4回目 | 職務の理解④ チームアプローチ、他職種との連携 | | | |
| 第5回目 | 介護における尊厳の保持・自立支援① 尊厳とは、アドボカシーについて | | | |
| 第6回目 | 介護における尊厳の保持・自立支援② ICFの視点について、QOLとは何か レポート「ICFの視点に沿った支援とは」 | | | |

| | | | |
|-------------------------------------|---|-----|---|
| 第7回目 | 介護における尊厳の保持・自立支援③ ノーマライゼーションとは何か | | |
| 第8回目 | 介護における尊厳の保持・自立支援④ 虐待防止・身体拘束禁止について、高齢者虐待防止法 | | |
| 第9回目 | 介護における尊厳の保持・自立支援⑤ 個人の権利を守る制度の概要 「縛られない老後について」 | | |
| 第10回目 | 介護における尊厳の保持・自立支援⑥ 自立に向けた介護 | | |
| 第11回目 | 介護の基本① 介護職の役割、専門性、他職種の理解・連携 | | |
| 第12回目 | 介護の基本② 介護職の職業倫理 | | |
| 第13回目 | 介護の基本③ 介護職における安全の確保とリスクマネジメント | | |
| 第14回目 | 介護の基本④ 介護職の安全について | | |
| 第15回目 | 試験とまとめ | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| | 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | | 10% | 授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、授業に臨むことができる。 |
| レポート | | 20% | 提示するテーマについて自分の言葉で述べることができる。序論、本論、結論と3部構成になっている。 |
| 調査報告書 | | | |
| 小テスト | | 10% | 毎回の授業において小テストやアクションペーパーを行う。学びの振り返りができる。 |
| 中間・学期末試験 | | 60% | 論述式・選択式で行う。 |
| 発表内容(態度含む) | | | |
| その他 | | | |
| 教科書と参考図書 | | | |
| 教科書：介護職員初任者研修課程テキストシリーズ1巻 (日本医療企画) | | | |
| 履修上の心得・ルール | | | |
| 訪問介護員資格取得のために出席は必須。携帯電話の使用や私語は禁止する。 | | | |